

## 第15回高知市街路市活性化推進委員会 議事録（概要）

日 時：令和6年7月16日（火） 14：00～16：10

場 所：高知市役所本庁舎6階 601会議室

出席委員：廣末委員長，中澤副委員長，今西委員，小田委員，楠瀬委員，寺尾委員，  
島中委員，平井委員，福田委員，

事務局：高知市商業振興・外商支援課

### 1. 令和5年度事業進捗状況について

- ・重点事業「小学校の授業や教材を通じた街路市文化の伝承」の中で市内小学校への「街路市だより」の配布をしたとあるが，配布後に授業で使われたかどうかの確認はしているか。（副委員長）

⇒配布をしたのみで，各学校でどのように活用されたかまでは確認していない。（事務局）

- ・現構想下でこの10年様々な取組をやってもらったが，それぞれの取組ごとにこれが良かったとか，良くなかったとか検証していく必要があるので，情報を今後提供していただきたい。（副委員長）

- ・41事業の中で，年1回のパンフレット作成やFacebook等による情報提供の強化があるが，フォロワー数はどれくらいか。（委員）

⇒公式SNS「とさの街路市」としてFacebookとInstagramがあり，市がシルバー人材センターに委託してシルバーのコーディネーターが各市開催ごとに早朝から取材して情報更新しているが，フォロワー数は，1,215人と少ない。一方で，街路市出店者有志で作成している非公式のSNSは，フォロワーが4,859人となっている。（事務局）

- ・SNSは若い人が主に閲覧するので，若い人目線での内容にすることも大事。非公式の日曜市のガイドブックが販売されているが大変好評で，個人的目線で発信しており若い人に共感してもらっている。地元の方，高齢の方にも好評で書店から続編を作ってもらいたいとの話もある。情報発信にはセンスが必要。（委員）

- ・公式SNSには同じような写真があり見づらい。（委員）

⇒今後，掲載内容の工夫等について担当コーディネーターと話し合っていく。（事務局）

## 2. 街路市関連の動向について

- ・街路市の漬物製造販売者の推移（聞き取り内容）について、令和6年5月の時点で、市の補助金を利用しない（利用できない）という方が12人とあるが、その理由は。（副委員長）
  - ⇒補助金制度ができる前に設備投資を実施したので、遡及して申請ができないケースや、申請の手続きが難しいと感じたり手間がかかるなどの理由があげられる。（事務局）
  - ⇒市の対応が遅いとの意見があったのは、補助金制度の創設が遅かったことか。（副委員長）
  - ⇒そのとおり。（事務局）

## 3. （次期）高知市街路市活性化構想について

- ・出店登録者の平均年齢が上がっていると聞いているがどのような状況か。（委員）
  - ⇒令和5年度時点で平均67.73歳となっており、現構想策定年度の平成26年度の平均66.66歳からは上昇している。（事務局）
- ・出店登録者に占める生産者の割合はわかるか。（委員）
  - ⇒令和5年4月1日時点で全街路市における一次産業従事者の割合は62.4%となっている。（事務局）
- ・出店基準の緩和は毎年行っているのか。（委員）
  - ⇒毎年ではないが、平成28年度に手作り食品、手作り工芸品を出店条件に追加した。また、平成30年度には、出店者同士でグループを組んで出店するグループ出店を可能としている。今後とも時代に合わせた出店基準の緩和は必要であるが、街路市の良さを損なわずに行っていく必要があるのでバランスが必要となる。（事務局）
- ・観光資源としての重要性について、観光客が相当増えているようであるが、出店者の委員に状況などをお聞きしたい。（委員）
  - ⇒クルーズ船による外国人観光客がかなり多くなっている。外国語で話すので対応が大変であるが、筆談などで何とか対応している。クルーズ船の外国人観光客は、野菜や刃物類などは購入できないので、そういった店では、なかなか売上げ増にはつながらないと思われる。青果は、わりと購入してもらえている。（委員）
- ・教育・学びの場として、小学校や高知大などの関わりにも取り組んできたと思うが、出店につながっているか。（委員）
  - ⇒イベントスペースの活用では、高知商業のジビエ販売などの出店が好評である。出店してもらうことがすべてではなく、何かしら街路市に関わってもらうことで、子どもの頃から街路市に親しみをもってもらえればと考えている。（事務局）

- ・出店者の中に子どもを含め家族みんなで出店を手伝っている例がある。こういったことも教育の上でも大切だと思う。(委員)  
⇒家族全員でやっているところは、店主が高齢で店番ができなくなっても家族の誰かが後を継いでくれる可能性が高いと思われる。(事務局)
- ・10年前の現構想策定時には、希望を持って提案をさせてもらったが、現状を見ると12時過ぎには店じまいをするところが多く、終日市なのに朝市と呼ばれるようになってるのが悲しい。観光ガイドとして理想を言えば、夕方までやってもらいたい。(委員)  
⇒いわゆる朝市化は課題として認識している。コロナ禍の際、早く閉店してもらうようにしていたことなどが拍車をかけたかもしれない。早く店じまいをするお店が多い中、高知の街路市は終日市であり他の朝市とは違うとの考えから長時間出店している出店者もいる。朝早く行くと良い品があるので、来客も朝早く来るようになっている。現実として夕方までの出店は少ない。市として強制はできないが、朝市ではないのでせめてお昼過ぎまでは出店してもらうことが望ましいと考える。(事務局)
- ・午後を過ぎると人通りが急に途絶えるので、店じまいをする店がどうしても多くなると思う。(出店している委員)
- ・終日市と言うからには、一定の時間までは出店しないといけないと思う。今では高知の街路市くらいしか終日市は無い状況である。何時まで出店する方が良いか考えないといけないが、出店者みんなで一定のルールを作って残ってもらう必要がある。(委員)
- ・以前、委員からあった意見で、午後もお店が開いていると観光客に案内したところ、お店がやっていなかったとの苦情を受けたことがあったとのことである。出店するには売上げも一定ないといけないし、後継者がいないと継続できない。外部環境の変化もあるが、街路市は高知の財産なのでなんとか残していかなければならない。(委員長)
- ・先日、終日、日曜市に居たが、12時過ぎには、まだお客さんがいるのに撤収のために車両が入ってくる。ところてんやうどん、タコスなどのお店が人気であり、例えば14時までやっているのであれば、お昼をゆっくり食べに行こうとなるが、周りが片付けを始めていると落ち着いて買い物ができなくなると思う。お金を落としてくれるお客さんがどうやったら街路市を楽しんでもらえるかもっと考える必要がある。(委員)  
⇒コロナ禍の際、市から早く店じまいをするよう指導したことがあり、そのことが拍車をかけた面があると思われる。出店準備が始められる時間や片付け終了の最終時間などは何時と決まっているが、店じまいの時間は各出店者の判断になる。しかしながら、朝方すぐなどあまりにも早く店じまいをするお店に対しては、せめてお昼頃までは片付けないでほしいと市からお願いをしている。商品が早めに完売する場合など出店者の事情もあり、そもそも市から何時までは店じまいをしてはいけないとの指

導はできないが、市としても朝市化問題は認識しているので、出店者みんなの努力目標となる閉店時間を決めるべきかなどについて、出店者と協議していきたい。なお、片付けのための車両の進入に問題はないが、早い時間だとまだ来市者も多いので特に安全に留意するよう指導している。(事務局)

- ・10年前には夕方までやっていたが、今は14時で閉めている。周りも店じまいするとどうしても早く店じまいすることになる。(出店している委員)
- ・朝市化問題への対策は、基本中の基本である。このことを解決しないと他の施策をいくらやっても改善されないと思う。なし崩しに店じまいをするのではなく、市が音頭を取って決め事としてもらいたい。(委員長)
- ・お客さんが飲食できる場、滞留できる場があると良いのではないか。(委員)  
⇒現構想の取組の中で、空き小間を活用した休憩所を設置しており、利用されている。(事務局)
- ・教育の場として、街路市の見学だけでは十分でないと思う。街路市の食材が家庭でどのように調理されているかも子どもたちに学んでもらいたい。この夏休みに国際中の生徒の発案で、日曜市で食材を買って田舎寿司を小学生と作る企画を実施しようとしているが、近隣に調理可能な場所がなく、かるぽーとまで行くこともあった。費用の問題があるが、街路市の台所となる施設を作るなどして、体験プログラムを行えば観光客にも人気が出ると思う。(委員)
- ・事前に市から相談を受けていたが、今回の調査では、予算の都合もあるとのことで、取捨選択を行った。アンケート内容は、10年前のアンケートをベースにコンパクトにして実施していく。(副委員長)
- ・次回10月下旬にたたき台ができるまでに、街路市の利用者(日曜市ファンなど)や子どもたちの声を聴く機会を持ってもらいたい。(委員)  
⇒日曜市利用者アンケート、WEBモニターアンケート、パブリックコメントなどで利用者の声は聴くこととしているが、対話の場としての実施を検討する。(事務局)
- ・街路市の歴史の中で廃止の危機もあったが、利用者の声で存続してきた。最近で言えば屋台の廃止があったが、利用者からの存続の声が大きければ存続できたかもしれない。生活市として街路市が必要と思われるようにしないと今後も存続できないと思うので、そういった視点でも次期構想を考えていきたい。(委員)
- ・今回、いろいろなご意見があったが、街路市を維持継続していくために、それぞれの立

場で考えていただき次期活性化構想を良いものにしていきたい。(委員長)